

FP Topics = 長期積立分散投資の方法 = 2022年5月号

5月の大型連休も無事に終わりました。今年は移動制限が解除され、大勢の人が公共の交通機関を利用されたようです。心配されていたコロナ禍は今のところ大事に至っていないようです。この調子で経済が順調に回復することを願います。6月から段階的にインバウンド事業も再開するようです。政府には上手な舵取りをお願いしたと感じています。

= 分散投資によるお金の置き場所 =

4月号で長期積立分散投資における、3つのリスク分散の考え方をご紹介しました。この3つのリスク回避を同時に行える金融商品があります。その金融商品とは、皆さんも一度は耳にしたことがあると思われませんが、《投資信託》というものです。

投資信託とは、運用の専門家（プロ）が投資家により出資されたお金をプールし、ひとまとめの大きな資金として株式や債券等に投資・運用する金融商品です。投資家はそれぞれの出資額に応じてその運用成果の分配を受ける仕組みになっています。



図解は投資信託の仕組みです。長期積立分散投資では、投資家は少額を毎月定額で自身が選定した投資信託（ファンド）に投資します。

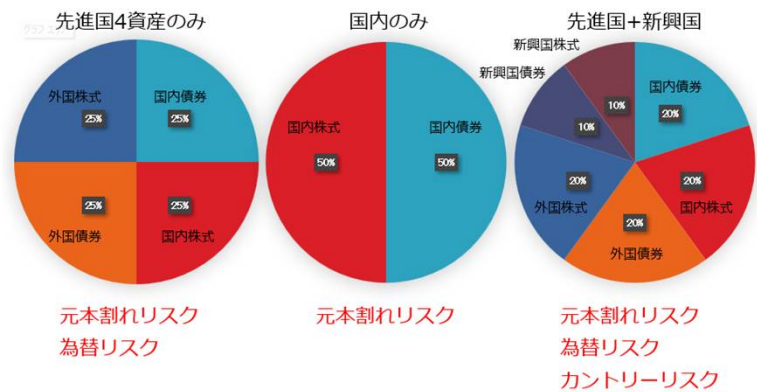
投資信託運用会社（運用の専門家）は、その投資されたお金をまとめ、一つの大きな資金としてさまざまな投資対象へ投資します。

投資家はそのさまざまな投資対象から得られた運用成果を、その出資額に応じて享受することになります。

= 投資信託による具体的な分散投資 =

図解では、さまざまな投資対象を株式や債券、デリバティブ等としています。さらにそれぞれ国内と国外に分散する仕組みになっています。ここでは、株式と債券の基本的な解説とさせていただきます。

具体的な分散方法として、下記のような組み合わせがあります。



※記載しているパーセンテージは一例です。自身が許容できるリスクの範囲内で組合せます。

【国内のみ】

日本国内のみの投資信託に分散投資する手法です。

《国内株式》

日本国内の株式市場に上場している株式。

《国内債券》

日本国内において円建てで発行されている社債及び日本国債その他。

投資元本は保証されません。海外金融商品を含まないため、比較的风险は低く抑えられます。



【先進国4資産】

先進国（G7等）の投資信託に分散投資する手法です。比較的リスクの低い国へ分散投資する考え方です。

◀国内株式▶ ▶国内債券▶

◀外国株式▶

外国株式とは海外（外国籍）の企業が発行する株式で、海外の証券取引所に上場している株式をいいます。

◀外国債券▶

外国債券とは、その発行体、発行通貨、発行市場のいずれかが外国である債券（社債や国債）をいいます。

代表的な外国株式・債券としては、アメリカ株式やアメリカ国債があります。元本割れリスクに加え、外国通貨も絡んでくることから、為替リスクも考慮する必要があります。

【先進国+新興国】

先進国（G7等）と新興国（急速な発展を遂げつつある国々『BRICs・ネクスト11など』）の株式や債券などに分散投資する考え方です。

◀国内株式▶ ▶国内債券▶

◀外国株式▶ ▶外国債券▶

◀新興国株式▶ ▶新興国債券▶

上記6資産に分散投資する手法ですが、新興国に投資をする場合、特に為替リスクに注意する必要があります。また、政情が不安定な国もあることから、カントリーリスクにも注意しなければなりません。

先進国や新興国の株式・債券に投資範囲を広げることにより、高リターンを得る可能性は高まります。しかし、資産運用では“ハイリスクハイリターン”は大原則です。長期積立分散投資における資産運用においても、そのリスクは許容しなければなりません。

しかし、長期積立分散投資では、相場の上がり下がり一喜一憂することなく、毎月〆〆淡々と定額を積立投資することから、相場が下がり基準価格が下落する際は『時間分散』の効果により、取得価格を低く抑えることができます。

天井からは容赦なく雨が滴ってきます。火器はあきらめて、シュラフ（寝袋）に潜り込むことにしました。ですが、寝袋もすぐに水浸しになります。あまりにも不快で、頭からすっぽりとシュラフに潜り込みます。あー・・・何もすることがないので、もう寝てしまおうと目を閉じますが、こんな状況でもお腹は空くのです。

考えてみると、朝から行動食を少しかじっただけで、食事をしていないことに気が付きました。

しかし、シュラフから出るのは億劫なので寝て気を紛らわすことにしたのです。目を閉じますが、寒いものは寒い・・・現役で山登りをしていた頃、厳冬の高山では、体感気温マイナス40度超の岩壁にへばりついていたり、寒さには慣れていたのですが、全身ずぶ濡れ状態だとやっぱり寒い・・・

ふだん大抵の山行きには、レインウェアの下（パンツ）は携行しないのですが、このときは、なぜか持っていました。これが命拾いしたというか大いに助かりました。上下のレインウェアを着込んでいることにより、常時雨にさらされることは避けられます。また、何の虫の知らせなのか？山行き直前にちょっとお高いレインウェアを新調していたのです。

たしか、4～5人の諭吉さんとさよならしたつらい思い出があります。さすがの諭吉さんパワーでゴアテックス機能を発揮してくれたのでした。しかし、じっとしているとあまり不快感はないものの、すこしでも体勢をかえると水が体を撫でまわします。なかなか寝付かれず、思考は今日の行動をなぞります。あーあそこであーしていれば、こうしていれば・・・

しかし不思議なもので、この状況でも自分が遭難しているとは露程にも思わないのです。

あ～～～っと思っはいるものの、心の底ではこの状況はなかなか面白いな～自然を直に感じるな～くらいに感じていたのでしょうか。せっかくの面白い経験なので、なるべく快適に過ごそうと考えていたのですが・・・

あまりの足の冷たさに足を上げてみると、なんと足の下に敷いていた、空のザックがぶかぶか浮いてるではないですか。頭より低く設営した足の部分が浸水して、金魚を飼えるほどの水が溜まっています。ん～～～どうしたものだろうーと考え始めます。